

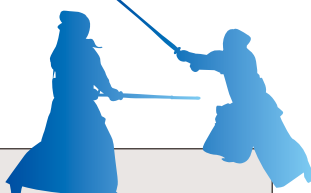
悔し涙も流した。震えるほどの喜びも味わった。すべてを明日へのチカラに変えて、名古屋から全国へ世界へ、飛躍しようとしているジュニアアスリート達。まさにいま青春ど真ん中。彼ら彼女らのスポーツにかける熱き思いをお届けします。

『攻めて勝つ』—— 洗心道場の教えを胸に、 常に一本を狙い打つ!

こばやし このこ

小林 心乃さん

(剣道・洗心道場 中学2年生)



プロフィール

- 洗心道場(東別院内)へ小学1年生で入門
- 愛知県小学生女子剣道選手権にて、小学2年、3年、4年、5年、6年と5年連続個人優勝
- 小学6年生、第37回全国道場少年剣道選手権大会小学生女子の部準優勝
- 中学2年生、第75回愛知県中学校総合体育大会中学女子の部優勝、東海大会準優勝
- 第51回全国中学校剣道大会中学女子の部出場
- 第39回小中学生女子剣道個人選手権大会愛知県予選会中学2年生の部優勝



——小学生の頃から活躍していますが、剣道との出会いは?

父と兄が剣道をしていて、この洗心道場には2歳くらいから通っていました。内田先生から「ちょっとやってみないか」と誘われていたのですが、いつも嫌がって道場の外に逃げていました(笑)。実際に始めたのは小学1年生からです。

——嫌がっていたけれど、やってみたら面白かった……?

小学1年生で面をつけ始めて間もない頃、小さな大会に出場しました。そこで優勝することができ、もっとがんばりたいと思い、現在まで続けています。

——そこから優勝を重ねていますね。小林さんが感じる剣道の魅力はどんなところですか?

面をつけたときに、自分の気持ちを切り替えることができることです。礼儀作法がとてもしっかりしていて、自然に礼儀が身につくのも魅力だと感じています。

——うれしかったこと、悔しかったことを教えてください。

それぞれの大会で優勝したときは、やっぱりうれしかったです。小学6年生のときに全国大会の決勝まで勝ち上がり、負けたのはとても悔しかった。決勝を戦えたのはうれしかったのですが、最後のところで負けてしまったので……。

(内田先生) 決勝戦は、延長延長の末の敗戦でした。この子はおとなしい子でね。でも、面を付けたら、すごく我慢強い。勝負に負けたり、苦しい練習でも泣いたところは見たことがありません。最後の最後まで粘り強く勝負して、彼女のいい面が出た試合でした。結果は負けましたが、いい試合でしたよ。

——練習や試合で心がけていることはありますか?

試合で勝ち続けてきて、勝ち続けてきたことにプライドを持って、試合でも怖がらずに前に行くようにしています。剣道は三本勝負、一本先制したとしても、守りや逃げに回らず、積極的に攻めてもう一本を取りに行く選手になりたいと思っています。

——まさに「攻めて勝つ」……洗心道場の教えですね。自分の強みは、どんなところにあると思いますか?

……まだ、自分ではよくわからないのですが……。

(内田先生) 先ほど粘り強いと言いましたが、その一方で、思い切りもいい。剣道では「打ち切る」と言いますが、がまんしてがまんして、ここぞという瞬間にスパーンと「打ち切る」度胸もありますね。

——では、今後の目標、将来の夢を教えてください。

近い目標は、全国中学校剣道大会の優勝を目指すこと。遠い目標は、将来、全日本選手権で活躍したいと思います。洗心道場で練習し、巣立っていった先輩の中に、全日本選手権に出場している方がいます。私もそうなれたらいいな、なるんだ、と心の中で考えています。

——内田先生はいかがですか?

(内田先生) 身近な目標としては、大会などで優勝して、日々の努力が結果として現れた、という喜びを味わってほしい。彼女たちは、道場だけではなく、家でも走ったりトレーニングをしているでしょうね。洗心道場としては、どの子もそうなんですが、勉強と剣道と両立した上で、こういう人生を送りたいという目標を見定める人間に成長してほしい。その一助となるのが、一貫した目標であり夢ですね。

——全日本選手権で、見事一本を決めて凍と立つ姿をぜひ見たいですね。本日は貴重なお話をありがとうございました。

